

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)

くろみやおおつか

黒宮大塚

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



場所

倉敷市真備町尾崎



時代

弥生時代



指定年月日

平成17(2005)年
12月5日



所有

熊野神社



し せき

この史跡について

真備町の中心部を西から東に流れる小田川に向かって突出する標高43mの丘陵上に黒宮大塚があります。昭和52(1977)年に倉敷考古館によって発掘調査が行われました。

墳頂部のやや北西よりで竪穴式石室1基が確認され、床面に敷かれた円礫上には朱が薄く認められ、中軸部が窪んでいることから、割竹形木棺が置かれ、石室には蓋石はなく、本来は木蓋が用いられていたと推定されています。

副葬品としては勾玉1点、管玉1点が検出されたのみですが、石室の上の方からは、墓へ供えられた特殊壺形土器・器台・台付壺・高坏などの土器類80個体以上が出土しました。

出土した土器類から、弥生時代後半に造られたものと考えられます。本遺跡は、古墳成立にいたる過程を研究する上で欠くことのできない遺跡であり、その時期に吉備地方で成立した首長墓への特殊な土器の供献状況を示す墳墓として大いに注目されています。